

## 第6学年 体育科学習指導案

期 間 平成17年 8月23日～9月16日  
対 象 一 関 市 立 田 河 津 小 学 校  
第6学年男子8名女子7名計15名  
授業者 菊 地 桂 子

### 1 単元名 めざせ 自己新記録！（ハードル走）

#### 2 単元の目標

- (1) ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、進んで運動に取り組もうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題を設定し、課題の解決を目指して練習の仕方を選択したり工夫したりする。 (思考・判断)
- (3) ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付け、自己の記録を伸ばす。 (技能)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

ハードル走は、ハードルを用いてリズムカルに障害を越える技能を身に付ける運動である。高度なスピードコントロールが必要であり、調整力が要求される。そのため、リズムカルに障害物を越えて走る楽しさを感じる児童がいる一方、障害物を越えることに恐怖心を持つ児童も多い。また、速さを競い合ったり、自分の記録に挑戦したりして楽しむことができる教材である。

##### (2) 児童観

児童は、日頃の学習において、指導者の指示を良く聞き、一生懸命に取り組んでいる。また、児童間における学力の差や運動能力の差も小さい。体育の時間は、特別支援学級の子を1名含んで学習をしているが、特に問題もなく、スムーズに学習を進めることができる。

##### (3) 指導観

学習指導要領の第5学年及び第6学年、C 陸上運動 (1)技能の内容は、「自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を身に付け、競争したり、記録を高めたりすることができるようにする。」であり、イ ハードル走においては、「ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付け、距離やルールを定めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりする。」とある。このハードル走の技能の内容とともに(2)態度や(3)学び方の内容「自己の能力に適した課題を決め、課題の解決の仕方を工夫することができるようにする。」をとらえていかなければならない。

そこで、本単元は、ハードルを用いてリズムカルに越える技能を身に付けるために、児童自ら課題を設定する力や課題解決の仕方を考えていく力を育成することを重点として設定した。

指導に当たっては、本単元「ハードル走」において、8秒間に4台のハードルを越え、距離を記録とする8秒間ハードル走を教材とする。5年生の時の経験や既習事項を想起させるとともに8秒間ハードル走を経験させた後、自己の記録を伸ばすことを課題として設定させたい。そして、単元前半では、課題を解決するためには、ハードルをリズムカルに越えたり低く越えたりすることが大切であることに気づかせ、踏み切りの位置や体の使い方などのポイントとなる動き（技能ポイント）を考えさせたい。単元後半では、単元前半で学習したことを生かして、児童自ら課題を設定し、練習方法を考えさせ、課題解決につなげたい。また、それらを考える過程において、指導者は、児童の「思考・判断」の実現状況を把握し、児童同士の学び合ったり、高め合ったりする場を意図的、計画的に設定する。そして、その場での活動を通して、児童自ら学習課題の解決ができるように指導していきたい。

4 単元の評価規準

〔イ ハードル走〕

	観点1 運動への関心・意欲・態度	観点2 運動についての思考・判断	観点3 運動の技能
単元の 評価規準	・ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、運動に取り組もうとする	・ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題を設定し、課題の解決を目指して練習の仕方を選択したり工夫したりしている	・ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付け、自己の記録を伸ばしている
学習活動に おける具体の 評価規準	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、練習に取り組もうとする ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、協力して運動をしようとする ハードルの持ち運び方、走路の安全を確かめようとする	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、リズムカルに越える技能ポイントを収集している ハードルを速く越える技能を身に付けるために、ハードルを低く越える技能ポイントを収集している ハードルを低く越える技能を身に付けるために、ふり上げ足やぬき足の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている ハードルを低く越える技能を身に付けるために、踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている ハードルを低く越える技能を身に付けるために、上体の使い方の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題を設定している ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題解決を目指して、練習方法や練習の場を選択したり工夫したりしている	ハードルを越えるときにふり上げ足やぬき足の技能ポイントを身に付けている ハードルを越えるときに踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを身に付けている ハードルを越えるときに上体の使い方の技能ポイントを身に付けている ハードル走における自己の記録を伸ばしている

5 指導と評価の計画

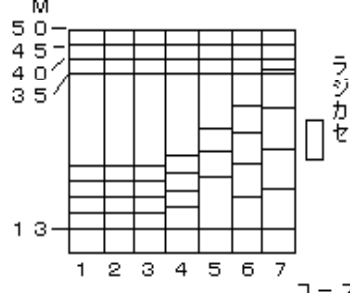
時間	段階		指導内容	評価方法	具体的評価 規準との 関連	
1	導入	学習課題を 設定する段階	オリエンテーション ・学習の約束や準備運動の理解 ・単元のめあての設定 ・学習のねらいや道すじの理解 ・速く越える技能ポイントを考えさせる	学習カード 及び発言や 行動などの 観察	観点1 観点2	
2	展開	学習課題を 追究する段階	《ねらい》 ハードルを 速く越える ための技能 ポイントを見 つけよう		ハードルを速く越える技能ポイントを 考えよう！ ・低く越えるという技能ポイントに 気付かせる	観点1 観点2
3		学習課題を解決する段階	ふり上げ足とぬき足に気をつけて、 ハードルを越えよう ・ふり上げ足は、まっすぐふり上げる ことやぬき足のひざやつま先を 外側に向けるという技能ポイント に気付かせる		観点1 観点2 観点3	
4			踏み切り位置と着地位置に気をつけ てハードルを越えよう ・ハードルから遠い位置で踏み切り ハードルから近い位置に着地する という技能ポイントに気付かせる		観点1 観点2 観点3	
5			上体の使い方に気をつけてハードル を越えよう ・上体を前に倒すという技能ポイン トに気づかせる		観点1 観点2 観点3	
6		追究・解決する段階	《ねらい》 自分のめあ てをたてて 挑戦しよう		自分に合っためあてをたてて挑戦し よう ・自分に合っためあてをたてる ・課題解決のために、今まで学習し たことを生かして、練習方法や場 の工夫をする	観点1 観点2 観点2
7	記録会をしよう				観点2 観点2 観点3	
8		終末				観点2 観点2 観点3

## 6 学習活動における具体の評価規準

時	具体の評価規準	観点	A	B	Cの児童への支援
1	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、練習に取り組もうとする	1 -	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、 <b>進んで</b> 練習に取り組もうとする	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、練習に取り組もうとする	記録の伸びを認め、賞賛する
	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、リズムカルに越える技能ポイントを収集している	2 -	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、 <b>自力で</b> 、リズムカルに越える技能ポイントを収集している	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、 <b>与えられた視点にそって</b> 、リズムカルに越える技能ポイントを収集している	技能ポイントを収集するための視点を確認した上で、収集するための方法に気付かせる
2	ハードルの持ち運び方、走路の安全を確かめようとする	1 -	ハードルの持ち運び方、走路の安全を <b>進んで</b> 確かめようとする	ハードルの持ち運び方、走路の安全を確かめようとする	安全に運動することの大切さを考えさせる
	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、ハードルを低く越える技能ポイントを収集している	2 -	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、 <b>自力で</b> ハードルを低く越える技能ポイントを収集している	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、 <b>与えられた視点にそって</b> 、ハードルを低く越える技能ポイントを収集している	技能ポイントを収集するための視点を確認した上で、収集するための方法に気付かせる
3	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、協力して運動しようとする	1 -	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、 <b>進んで</b> 協力して運動しようとする	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、協力して運動しようとする	協力して運動している児童を話題に取り上げ、協力して運動することの大切さに気付かせる
	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、ふり上げ足やぬき足の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	2 -	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、ふり上げ足やぬき足の技能ポイントを収集し、 <b>理由を明確にし</b> ながら、自分の考えをまとめている	ハードルを速く越える技能を身に付けるために、ふり上げ足やぬき足の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	「体のどこが」「どのようになればよいか」を一問一答で明らかにさせ、学習カードに書かせる
	ハードルを越えるときにふり上げ足やぬき足の技能ポイントを身に付けている	3 -	ハードルを越えるときにふり上げ足やぬき足の技能ポイントを <b>確実に</b> 身に付けている	ハードルを越えるときにふり上げ足やぬき足の技能ポイントを身に付けている	デジタルカメラを使って、自分のフォームを見る活動などをおして、達成状況を客観的にとらえさせる
4 (第3時と同じ)	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	2 -	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを収集し、 <b>理由を明確にし</b> ながら、自分の考えをまとめている	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	「体のどこが」「どのようになればよいか」を一問一答で明らかにさせ、学習カードに書かせる
	ハードルを越えるときに踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを身に付けている	3 -	ハードルを越えるときに踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを <b>確実に</b> 身に付けている	ハードルを越えるときに踏み切り位置や着地位置の技能ポイントを身に付けている	デジタルカメラを使って、自分のフォームを見る活動などをおして、達成状況を客観的にとらえさせる
	(第1時と同じ)	1 -			
5 (第1時と同じ)	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、上体の使い方の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	2 -	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、上体の使い方の技能ポイントを収集し、 <b>理由を明確にし</b> ながら、自分の考えをまとめている	ハードルを低く越える技能を身に付けるために、上体の使い方の技能ポイントを収集し、自分の考えをまとめている	「体のどこが」「どのようになればよいか」を一問一答で明らかにさせ、学習カードに書かせる
	ハードルを越えるときに上体の使い方の技能ポイントを身に付けている	3 -	ハードルを越えるときに上体の使い方の技能ポイントを <b>確実に</b> 身に付けている	ハードルを越えるときに上体の使い方の技能ポイントを身に付けている	デジタルカメラを使って、自分のフォームを見る活動などをおして、達成状況を客観的にとらえさせる
6 (第2時と同じ)	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題を設定している	2 -	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、 <b>自分の力に合った</b> 課題を設定している	ハードルを用いて、リズムカルに越える技能を身に付けるために、課題を設定している	学習カードの振り返りで書いた部分を再度振り返らせ、自分のできていない技能ポイントを学習課題として設定させる
	課題解決を目指して、練習方法や練習の場を選択したり工夫したりしている	2 -	課題解決を目指して、練習方法や練習の場を選択し、更に <b>工夫して</b> いる	課題解決を目指して、練習方法や練習の場を選択している	学習計画表でこれまでの練習方法を振り返らせ、自分の課題に合った練習方法や練習の場を選択させる
8 (第7時と同じ)	(第7時と同じ)	2 -			
	(第7時と同じ)	2 -			
	ハードル走における自己の記録を伸ばしている	3 -	ハードル走における自己の記録を <b>確実に</b> 伸ばしている	ハードル走における自己の記録を伸ばしている	記録を伸ばすための具体的なアドバイスをする

7 指導と評価の展開

第1時


学習内容・学習活動	時間	具体的評価規 準との関連	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
<p>1 学習の約束と準備運動の理解をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンドサイン、ハードルの持ち方、学習の準備の仕方など学習の約束をする。</li> <li>・準備運動を実際にやってみる。</li> </ul> <p>体操 自由走 ケンパー 自由走 ケンゲー スキップ ギャロップ</p>	10		<p>事前に学習カードを記入させ、個々の願いを把握する。</p> <p>特に足首は、しっかりほぐすようにさせる。</p>	<p>黒板</p> <p>ホイッスル</p>
<p>2 8秒間ハードル走の方法を理解し、挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8秒間に4台のハードルを越えて走り、距離を記録として挑戦する。</li> <li>・スタートの合図と6秒、7秒、8秒(ゴール)の合図をラジカセで繰り返しながら。</li> <li>・恐怖心を抱いている子のために、ミニハードルのコースも設定する。</li> <li>・高さ40cmのハードルで、5.0M(ミニハードル)5.0M(2コース)、5.5M、6.0M、6.5M、7.0Mのインターバルコースを設定する。</li> <li>・5人グループで挑戦する。結果を黒板に記録させる。</li> </ul>	10	<p>走路の安全を確認してスタートすることを指導する。</p> 	<p>ラジカセ</p> <p>ハードル</p> <p>ミニハードル</p> <p>ミニコーン</p> <p>記録用ボード</p> <p>名前磁石</p> <p>学習カード</p>	
<p>3 学習のねらいや学習計画を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ねらい ハードルを速く越えるポイントを見つけよう!」「ねらい自分でめあてをたてて挑戦しよう」という単元の学習計画を理解させる。</li> </ul>	10		<p>学習計画表</p> <p>学習カード</p>	
<p>4 単元のめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めざせ!自己新記録!!</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の願いを共通の願いにする形で話し合い、単元のめあてを設定する。</li> </ul> <p>5 ハードルを速く越える技能ポイントを考え、挑戦してみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速く越える技能を身に付けさせるために、リズムカルに越える大切さに気付かせる。</li> </ul>	10	<p>観点2</p> <p>学習カード</p> <p>観察(発言内容・挙手)</p> <p>考・判断」の状況を把握する。</p> <p>発言する子は、理由を話すこと、聞いている児童は、ハンドサインを示すことを大切にさせる。</p> <p>観察(行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカルに越えようと、練習に取り組む様子から、「関心・意欲・態度」の状況を把握する。</li> </ul> <p>練習方法の例を掲示しておく。</p> <p>必要な技能ポイントに気付かないときは、視点をもたせる。</p> <p>観点1</p> <p>練習方法</p>	<p>練習方法</p>	
<p>6 学習のまとめと次時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムカルに越えるための技能ポイントについて考える次時の学習への意欲を持たせる。</li> </ul> <p>7 整理運動をする。</p> <p>8 後始末をする。</p>	5			



第3時

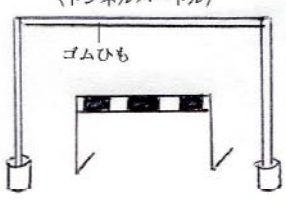
学習内容 ・ 学習活動	時間	具体的評価規 準との関連	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
1 学習の準備と準備運動をする。 2 今日のめあてを設定する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                         ふり上げ足とぬき足に気をつけて、ハードルを越えよう！                     </div>	5		校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから、準備運動をさせる	
3 話し合う。 ・ふりあげ足とぬき足の使い方について自分の考えを鉛筆で学習カードに記入させる。 ・ふりあげ足とぬき足の使い方（技能ポイント）について話し合う。 ・話し合いで、視点を与え、ハードルに挑戦させる。	5	観点2	学習カード ・ふりあげ足とぬき足の使い方について記入した考えから「思考判断」の状況を把握する。 観察（発言内容や挙手） ・ふりあげ足とぬき足の使い方について話し合う様子から「思考・判断」の状況を把握する。 話し合いの中で、気づいたことは、青ペンで学習カードにどんどん記入させる。	学習カード
4 考える。 ・ハードルに挑戦しながら、技能ポイントを考える。	5	観点2	観察（行動） ・ハードルを跳んでいる様子や友だちと話し合っている内容から「思考・判断」の状況を把握する。 技能ポイントがなかなか考えられない状況が見られたときは、適宜集合させて視点を与える。	ハードル ラジカセ ミニコン 記録用ボード 名前磁石 学習カード
5 話し合う。 ・みんなで話し合い、技能ポイントをまとめる。 ・ふり上げ足は、低くまたぎ越すために、まっすぐに伸ばす。足の裏が見えるように越える。ぬき足は、低くまたぎ越すために、ひざとつま先を外側に向けるまたは、くるぶしが空を向くという技能ポイントに気付かせたい。	5	観点2	観察（発言内容や挙手） ・ふりあげ足とぬき足の使い方を話し合う様子から「思考・判断」の状況を把握する。	写真
6 練習する。 ・ふり上げ足は、足の裏が見えるか互いに教え合う。 ・ぬき足は、横木の上に色チョークをぬった画用紙を貼り付けた足ぬきハードルを使い、色の付き具合を見ながら、練習させる。	20		練習方法の例を掲示する。  <div style="text-align: center;"> </div> 記録を測定して確かめることも大切にする。 デジタルカメラでフォームを動画でとり合い考える方法も指導する。 観察（行動） ・ふりあげ足やぬき足の様子から「技能」の状況を把握する。	足ぬきハードル  デジタルカメラ
7 学習のまとめと次時の学習について知る。 ・今日の学習を振り返り、めあてを達成できたか、また絵図と自分の越え方との違いについて学習カードに記入させる。 8 整理体操をする。 9 後始末をする。	5	観点1	観察（行動） ・友だちと協力して、ハードルに挑戦する様子から「関心・意欲態度」の状況を把握する。 ハードルの持ち運び方の安全に留意させながら、素早く協力して行わせる。	

第4時

学習内容 ・ 学習活動	時間	具体の評価規 準との関連	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
1 学習の準備と準備運動をする。 2 今日のめあてを設定する。	5		校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから、準備運動をさせる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                         踏み切り位置と着地位置に気をつけて、ハードルを越えよう！                     </div>		観点2	学習カード ・踏み切り位置、着地位置について書いた考えから「思考・判断」の状況を把握する。	
3 話し合う。 ・踏み切り、着地位置について自分の考えを鉛筆で学習カードに記入させる。 ・踏み切り、着地位置（技能ポイント）について話し合う。 ・話し合いで、視点を与え、ハードルに挑戦させる。	5	観点2	観察（発言内容や挙手） ・踏み切り位置、着地位置について話し合う様子から「思考・判断」の状況を把握する。 話し合いの中で、気づいたことは、青ペンで学習カードにどんどん記入させる。 観察（行動） ・ハードルを越えている様子や聞き取り、友だちと話し合っている内容から「思考・判断」の状況を把握する。	学習カード
4 考える。 ・ハードルに挑戦しながら、技能ポイントを考える。	5	観点2	観察（発言内容や挙手） ・踏み切り位置、着地位置を話し合う状況から「思考・判断」の状況を把握する。	ハードル ミニハードル ラジカセ ミニコーン
5 話し合う。 ・みんなで話し合い、技能ポイントをまとめる。 ・踏み切りは、遠い位置で、着地は、近い位置でという技能ポイントに気付かせたい。着地位置を近くするために、ふりあげ足を速く振り下ろすことにも気付かせたい。	5		技能ポイントがなかなか考えられない状況が見られたときは、適宜集合させて視点を与える。  練習方法の例を掲示する。	記録用ボード 名前磁石 学習カード ビデオ
6 練習する。 ・グループごとに、ハードルの下に段ボールを敷いたり、踏み切る位置にマーキングをして練習させる。	20		 <p>記録を測定して確かめることも大切にする。 デジタルカメラでフォームを動画でとり合い考えることの大切さも指導する。</p>	段ボール 石灰
7 学習のまとめと次時の学習について知る。 ・今日の学習を振り返り、技能ポイント、めあてを達成できたか、学習カードに記入させる。	5	観点3	観察（行動） ・踏み切り位置と着地位置の様子から、「技能」の状況を把握する。	
8 整理体操をする。 9 後始末をする。		観点1	観察（行動） ・進んで練習に取り組む様子や協力して練習に取り組む様子から「関心・意欲・態度」の状況を把握する。	
		観点2	学習カード ・踏み切り位置、着地位置について書いた考えから「思考・判断」の状況を把握する。（事後） ・筋肉をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。 ハードルの持ち運び方の安全に留意させながら、素早く協力して行わせる。	



第5時

学習内容 ・ 学習活動	時間	具体的評価規 準との関連	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
1 学習の準備と準備運動をする。 2 今日のめあてを設定する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">             上体の使い方について気をつけて、ハードルを越えよう！           </div>	5		校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから準備運動をさせる。	
3 話し合う。 ・上体の使い方について自分の考えを鉛筆で学習カードに記入する。 ・上体の使い方（技能ポイント）について話し合う。 ・話し合いにおいて、視点を与え、ハードルに挑戦させる。	5	観点 2	学習カード ・上体の使い方について記入した考えから「思考・判断」の状況を把握する。 観察（発言内容や挙手） ・上体の使い方について話し合う様子から「思考・判断」の状況を把握する。 話し合いの中で、気づいたことは、学習カードに青ペンでどんどん記入させる。	
4 考える。 ・ハードルに挑戦しながら、技能ポイントを考える。	5	観点 2	観察（行動） ・ハードルを越えている様子や聞き取り、友だちと話し合っている内容から「思考・判断」の状況を把握する。	ハードル ラジカセ ミニコーン 記録用ボード 名前磁石 学習カード ビデオ
5 話し合う。 ・みんなで話し合い、技能ポイントをまとめる。 ・上体を倒すという技能ポイントに気付かせたい。そのための腕の使い方にも気付かせたい。	5	観点 2	観察（発言内容や挙手） ・上体の使い方を話し合う状況から「思考・判断」の状況を把握する。	
6 練習する。 ・グループごとに、ハードルの上に平ゴムで作ったトンネルがついたトンネルハードルを使って練習させる。	20	観点 3  観点 1	観察（行動） ・上体の使い方から、「技能」の状況を把握する。 観察（行動） ・進んで練習に取り組む様子から「関心・意欲・態度」の状況を把握する。 練習方法の例を掲示する。  <div style="text-align: center;"> <p>〈トンネルハードル〉</p>  </div> 記録を測定して確かめることも大切にする。 デジタルカメラでフォームを動画でとり合い考えることの大切さも指導する。	
7 学習のまとめと次時の学習について知る。 ・今日の学習を振り返り、めあてを達成できたか、またお手本カードと自分の違いについて学習カードに記入させる。	5			
8 整理体操をする。		観点 3		
9 後始末をする。			学習カード 記録黒板 ・事後において、記録の伸びから、「技能」の状況を把握する。	

第6時

学習内容 ・ 学習活動	時間	具体の評価規 準との関係	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
1 学習の準備と準備運動をする。	5		校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから準備運動をさせる。	
2 今日のめあてを設定する。	5	観点 2	学習カード ・記入しためあてから「思考・判断」の状況を把握する。	学習カード
自分に合っためあてをたて、挑戦しよう！				
・めあてと練習計画をたて、学習カードに記入する。				
3 話し合う。		観点 2	観察（発言内容・挙手） ・めあてを発表させることで「思考・判断」の状況を把握する。	
			めあてを発表することによってめあてがたてられない児童の参考にさせる。 ・めあてとなる体の部位に、リボンをつけさせる。	リボン
4 練習する。 ・同じめあての子でグループを作る。 ・単元前半で学習したことや学習資料から練習方法を考え、学習カードに記入する。	25	観点 2	観察（行動） ・練習方法から思考・判断の状況を把握する。	ハードル ラジカセ ミニコーン
		観点 1	観察 行動 ・ハードルの持ち運び方、走路の安全を確かめる様子から「関心意欲・態度」の状況を把握する。気付いたことは、学習カードにどんどん記入させる。 練習方法を工夫している児童やフォームがよくなった児童を紹介する。	記録用ボード 名前磁石
5 学習のまとめと次時の学習について知る。	7	観点 2	学習カード ・事後において、めあてや練習方法が児童一人一人にとって適切であったか、8秒間ハードルの結果と合わせて「思考・判断」の状況を把握する。	
・今日の学習を振り返り、めあては適切だったか。また、めあてを達成できたかを学習カードに記入させ、話し合う。		観点 2	・次時のめあてや練習方法が適切であるか「思考・判断」の状況を把握する。	
・次時の自分のめあて、練習方法を学習カードに記入する。			支援の必要な児童には、学習カードを通して、アドバイスをする。	
6 整理体操をする。	3		・筋肉をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。	
7 後始末をする。			ハードルの持ち運び方の安全に留意させながら、素早く協力して行わせる。	

第7時

学習内容 ・学習活動	時間	具体的評価規 準との関係	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
<p>1 学習の準備と準備運動をする。</p> <p>2 今日のめあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分に合っためあてをたてて挑戦しよう！</p> </div> <p>・めあてをたて、学習カードに記入する。</p> <p>3 話し合う。</p> <p>4 練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じめあての子で、グループを作る。</li> <li>・単元前半で学習したことや学習資料から練習方法を考え、学習カードに記入する。</li> </ul> <p>5 学習のまとめと次時の学習について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習を振り返り、めあては適切だったか。また、めあてを達成できたかを学習カードに記入させ、話し合う。</li> <li>・次時の自分のめあて、練習方法の計画を学習カードに記入する。</li> </ul> <p>6 整理体操をする。</p> <p>7 後始末をする。</p>	<p>5</p> <p>5</p> <p>25</p> <p>7</p> <p>3</p>	<p>観点2</p> <p>観点2</p> <p>観点2</p> <p>観点1</p> <p>観点2 観点2</p>	<p>校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから準備運動をさせる。</p> <p>学習カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記入しためあてから「思考・判断」の状況を把握する。</li> </ul> <p>観察（発言内容・挙手）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを発表させることで「思考・判断」の状況を把握する。</li> <li>めあてを発表することによって、めあてがたてられない児童の参考にさせる。</li> <li>・めあてとなる体の部位に、リボンをつけさせる。</li> </ul> <p>観察（行動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・練習方法から「思考・判断」の状況を把握する。</li> </ul> <p>観察 行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードルの持ち運び方、走路の安全を確かめる様子から「関心意欲・態度」の状況を把握する。気付いたことは、学習カードにどんどん記入させる。練習方法を工夫している児童やフォームがよくなった子を紹介する。</li> </ul> <p>学習カード</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事後において、めあてや練習方法が児童一人一人にとって適切であったか、8秒間ハードルの結果と合わせて「思考・判断」の状況を把握する。</li> <li>・次時のめあてや練習方法が適切であるか「思考・判断」の状況を把握する。</li> </ul> <p>支援の必要な児童には、学習カードを通して、アドバイスをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋肉をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。</li> <li>ハードルの持ち運び方の安全に留意させながら、素早く協力して行わせる。</li> </ul>	<p>リボン</p> <p>ハードル ラジカセ ミニコーン 記録用ボード 名前磁石</p>

第8時

学習内容 ・学習活動	時間	具体の評価規 準との関係	指導上の留意点 評価方法	用具・資料
1 学習の準備と準備運動をする。	5		校庭に出てきた順番にハードルの準備をさせる。全員揃ったグループから準備運動をさせる。	
2 今日のめあてと練習方法の設定をする。	5			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">めざせ！自己新記録！！</div>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の記録会でのめあてを発表する。</li> </ul>		観点2	学習カード 観察（発言内容・挙手） ・設定しためあてから、思考・判断の状況を把握する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習したことを生かして練習方法を考える。</li> </ul>		観点2	学習カード 観察（行動） ・自己新記録を目指して、練習方法を考え、取り組む様子から「思考・判断」の状況を把握する。	
3 記録会にむけて、練習する。	10			
4 記録会をする。 ・記録会の分担をする。 ・2～3人ずつ記録をとり、ハードルを越える技能ポイントを見て、評価しあう。	20	観点3	学習カード 観察 ・自己記録を伸ばす様子から「技能」の状況を把握する。	ハードル ゴムひも ハードル ラジカセ ミニコーン 記録用ボード 名前磁石
5 学習のまとめをする。	5			
6 整理体操をする。			筋肉をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。	
7 後始末をする。			ハードルの持ち運び方の安全に留意させながら、素早く協力して行わせる。	